

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	知識・理解や計算力等、基礎的基本的な内容がどの児童にも定着できるような授業を展開する。	中間評価	全学年、課題解決に向けて改善されてきた。今後も更なる基礎、基本の定着に向けて授業を工夫していく。	最終評価	新宿学力定着度調査の結果より、国語・算数ともに基礎的な学力の定着を図ることができた。来年度は、自分の考えを伝え合う学習について力を入れていきたい。
環境作り		場の構造化や人との関わり合いなどを重視し、全ての児童が授業に集中して意欲的に取り組めるような授業環境を整える。		タブレット端末を効果的に活用し、対話的な学びをさらに重視していく。		タブレット端末を活用した主体的・対話的で深い学びの実践への基盤ができあがった。

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析（10 月）	課 題（10 月）	改善のための取組（10 月）	最終評価（2 月）	
1	国語	<div>学</div> ・ひらがなやカタカナを読んだり書いたりすることに興味があり、学年相応の語彙力も身に付いている。 <div>学</div> ・文章の読み取りに関しては個人差があり、伝え合う活動に不安を感じる児童もいる。	<div>・</div> マス目を意識して字形を整えて書く力を伸ばしていく必要がある。 <div>・</div> 口形や姿勢を意識して正しく発音し文章を読む必要がある。 <div>・</div> 文章を読んで感じたことを友達と伝え合う力を伸ばしていく必要がある。	<div>・</div> マス目に字形を整えて書くために、正しい鉛筆持ち方や姿勢の保持についての指導はもちろん、教師と一緒に時間を掛けてゆっくりと取り組ませる指導が必要である。 <div>・</div> 音読を行う際には姿勢の保持や教科書の持ち方、口形の指導など、はっきりと発音することの大切さを指導する。文章は単語ではなく、一つのまとまりとして読む習慣付けを行うために家庭にも協力を呼び掛けていく。 <div>・</div> 読書活動の充実を図り、友達同士で感想を伝え合う機会を多くすると共に、家庭での読書の充実についても呼び掛けていく。	<div>【成果】</div> <div>・</div> 正しい姿勢や鉛筆の持ち方を指導したことで字形を整えて書く力を伸ばすことができた。 <div>・</div> ご家庭にも協力してもらい継続して取り組んだことで音読の力を伸ばすことができた。 <div>・</div> 言葉遊びや漢字の学習に親しむことで、語彙力が付いてきた。 <div>【課題】</div> <div>・</div> 継続して美しい文字が書けるよう引き続き、取り組む必要がある。 <div>・</div> 読書活動の充実を図り、自分の考えや感想を伝え合う機会をより多くする。	
	算数	<div>学</div> ・基本的な計算の力（足し算・引き算）の力は概ね身に付いている。 <div>学</div> ・身の回りの数について興味を持ち、計算したり比べたり、算数への関心が高い。 <div>学</div> ・問題を読んで考え計算することに慣れていない児童が多い。	<div>・</div> 繰り返し計算練習を行い、習熟を行い、正確に計算する力を高める必要がある。 <div>・</div> 学習した内容を学校生活だけではなく、家庭でも活用できるよう保護者との連携を密にしていける必要がある。 <div>・</div> 問題を読み、問われている内容について理解する力を伸ばす必要がある。	<div>・</div> ドリルを活用し、繰り返し練習することで、繰り上がり繰り下がりの計算の力を確実に身に付けさせる指導が必要である。 <div>・</div> 家庭生活において既習事項を活用する場面を増やすことはもちろん、算数的な活動の充実を図るため、保護者会や個人面談、学年便りを通じて保護者への協力を呼び掛けていく。 <div>・</div> クラス全体で問題をじっくりと取り組む時間を設け、苦手意識を持たせないような指導の充実を図る。	<div>【成果】</div> <div>・</div> 計算ドリルや家庭学習を通してくり返し練習することで計算の力を付けることができた。 <div>・</div> ノートに自分の考えを書く機会を増やし、さまざまな考え方を引き出すことができた。 <div>【課題】</div> <div>・</div> 文章問題を苦手と感じている児童がおり、個人差が開かないように指導をする必要がある。	
学年	教科	学習状況の分析（4 月）	課 題（4 月）	改善のための取組（4 月）	中間評価・追加する取組（10 月）	最終評価（2 月）
2	国語	<div>学</div> ・話すこと、聞くことへの興味があり、学年相応の語彙力や読み書きの力は身に付いており、能力は高い。 <div>学</div> ・新しい文章を読み、深く考えたり、自分の考えを伝えたりすることに関する活動に不安を感じている児童がいる。 <div>学</div> ・授業に対して明確に目標をもって取り組んでいる児童が多くはない。	<div>・</div> 新出漢字を正しく字形を整えて書く力を伸ばしていく必要がある。 <div>・</div> 教科書の物語の文章や詩の音読などにおいて、内容をしっかりと読み取る力を伸ばしていく必要がある。 <div>・</div> 毎時間の授業に対して自分なりの目標をもち、取り組もうとする態度を養っていく必要がある。	<div>・</div> マス目に字形を整えて書くためには、まずは正しい姿勢を保持するための指導や、じっくり丁寧に書くことの大切さを指導する必要がある。 <div>・</div> 音読の際のスピードはもちろん、ここでも姿勢の保持や教科書の持ち方、口形の指導など、はっきりとした文章を耳で聞き取ることの大切さについて指導する。文章は単語ではなく、一つのまとまりとして読む習慣付けを行う。 <div>・</div> 様々な文章を読む機会を設けるための読書活動の充実を図り、家庭へも協力を呼び掛けていく。 <div>・</div> 授業の最初と最後で目標の設定と確認を必ず行い、児童がめあてをもって授業に取り組むことができるようにする。	<div>・</div> 授業の中で新出漢字の指導を行う際に、マス目を頼りに字形を整えて書くことはできるようにはなっているが、姿勢の保持に関しては今後も粘り強く継続して指導していく必要がある。 <div>・</div> 集中力を切らしがちな児童に対しては言葉掛けを増やし、集中力が継続するよう個別に対応していく必要がある。 <div>・</div> マスクを常時着用しているということで、教師の口径を見せることもできず、そして、児童の口径の見取りも行うことができていないのが現状である。しかし、発声の仕方については、よりはっきりと聞き取ることができるようになっており、姿勢や口径の指導の成果であると考えている。 <div>・</div> 正しい口径の仕方を録画し、児童のタブレット端末で視聴し練習できるような教材の開発についても今後検討していきたいと考えている。 <div>・</div> 日常的な読書の習慣が身に付き、語彙も増えてきていると感じている。保護者会や学年だよりを通してさらなる読書活動の充実を促していく必要がある。 <div>・</div> 授業のめあてを意識して取り組む児童が増えてきており、今後も継続して指導する。	<div>【成果】</div> <div>・</div> 音読や漢字の家庭学習に毎日取り組み、新出漢字を覚え、丁寧に書けるようになった。 <div>・</div> はじめ、中、終わりの構成を意識して、文章を書くことができた。 <div>【課題】</div> <div>・</div> 文章を書くことへの意欲は、個人差が見られるので、引き続き作文ノートを活用し、対応していく。 <div>・</div> 来年度も引き続き学校や家庭での読書活動の充実を図る必要がある。

	算数	<p><b>学</b>・基本的な計算の力（足し算・引き算）の力は概ね身に付いている。</p> <p><b>学</b>・授業で習ったことを実際の生活に生かそうと意識している児童は多くはない。</p> <p><b>学</b>・文章題に対してじっくりと問題を読んで正しく答えられる児童は多くはない。</p>	<p>・計算力と正確性が一致していないため、ケアレスミスが多いので、正確に計算するという力を伸ばしていく必要がある。</p> <p>・学習内容を学校生活における様々な場面で活用する能力を伸ばす必要がある。</p> <p>・問題を最後まで読みじっくり考える能力を伸ばす必要がある。</p>	<p>・じっくりと時間をかけて正確に計算することの大切さを指導し、家庭学習の充実も併せて行い計算力の定着を図る。</p> <p>・学校生活において既習事項を活用する場面を増やすことはもちろん、家庭生活においても算数的な活動の充実を図るため、学年だよりや学級だよりを通じて保護者への協力を呼び掛けていく。</p> <p>・自分の考えや友達のことをノートに書いたり、それを発表・交流したりする機会を多く設けることで学習意欲の向上を図る。</p> <p>・文章題に対する苦手意識を持たせないために、全体でじっくり問題に取り組む時間を設け、自己肯定感を持てるような指導の充実を図る。</p>	<p>・じっくりと時間を掛けて取り組ませる指導継続した結果、全体的にケアレスミスは減少していると感じている。しかし、単元や問題の難易度によって個人差がある。今後も家庭との連携を密にし、基礎的な計算力の向上を図る必要がある。</p> <p>・タブレット端末のデジタルドリルを活用し、習熟の質を向上させる。</p> <p>・既習事項である長さや重さを比べることや、足し算引き算を活用し、日常生活に生かす児童が増えてきたと実感している。今後も継続して活用場面を増やす指導をしていく必要があり、保護者への呼び掛けを継続して行う。</p> <p>・タブレット端末のを活用し、児童が考えたことをリアルタイムで交流する活動を行う。</p> <p>・文章題に対する苦手意識をもつ児童は今のところ大きな変化は見られないが、今後も苦手意識をもたせないような指導を継続する必要がある。</p>	<p>【成果】</p> <p>・毎日家庭学習に取り組み、足し算・引き算の筆算ができ、かけ算九九を覚えた。</p> <p>・問題文を読み、内容をテープ図に表す学習にも、意欲的に取り組んだ。</p> <p>【課題】</p> <p>・応用問題には個人差が見られるので、分かることを確認して意欲をもたせる。</p>
3	国語	<p><b>調</b>・すべての領域において全国平均正答率を上回っており、概ね2年生の基礎的な学習は身に付いているといえる。しかし、個人差が大きく、二極化している。</p> <p><b>調</b>・「主体的に学習して取り組む態度」や「記述」に関することが全国平均を下回っている。</p> <p><b>学</b>・提出されている漢字ノートを見ると、書き取りでの間違いが多く定着状況は低い。</p>	<p>・経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、文章を書く力を伸ばす必要がある。</p> <p>・自分の思いや考えが明確になるような文章を書く力を伸ばす必要がある。</p> <p>・話し手の話に関心を持ち、質問する力を伸ばす必要がある。</p>	<p>・「まず～」「つぎに～」「そして～」などの順番を表す言葉を使って文章を書かせることで、順序立てた文章を書く力を付けていく。</p> <p>・相手の目を見て傾きながら聞くという習慣を付ける。話し手に対する切り返しの質問を教師が率先して行う。</p> <p>・授業の最後に感想や学んだことを振り返らせる短い文章を書かせることで、自分の思いや考えを具現化する機会を設ける。</p>	<p>・経験したことがらについては順序立てて文章を書くことができる児童が増えてきている。しかし、時系列を表す指示語については、適切に活用している児童は少ない。今後は、読書活動の充実も視野に入れて家庭との連携を図りながら指導する。</p> <p>・授業における児童の感想や学んだことの振り返りがまだまだ不十分である。各教科等の授業においても、1単位時間の終わりに学習感想や振り返りを文章で書く活動を位置づける。</p> <p>・授業での振り返りの時間の充実を図ることで、児童一人ひとりの学びに対する意識が向上するように今後も1単位時間のマネジメントの質を向上させていく。</p> <p>・友達の話聞く際の目線や傾きなど、話を自分事としてとらえられるようになってきた児童が増えつつある。</p> <p>・教師自身の切り替えしについては児童がすぐに真似できるように国語の時間だけではなく学校生活全体を通して行っていく。</p> <p>・タブレット端末のデジタルドリルを効果的に活用し、漢字学習において習熟を高めるための指導を充実させる。</p>	<p>【成果】</p> <p>・読書活動を継続的行ったことで順序だてて文章を書くことができる児童が増えた。授業における感想や学んだことの振り返りにについてもめあてに沿って書くことができる児童が増えた。</p> <p>・友達の話聞く際に自分事として捉える児童が増え、切り返しの質問を行う児童も増えた。</p> <p>【課題】</p> <p>・1単位時間の授業のマネジメントの質をあげることで、指導と評価の一体化を図り、今後も児童の学びに対する意欲を向上させる取組が必要である。</p> <p>・タブレット端末を活用したデジタルドリルの活用についてはハード面や児童の技能面の課題もあり、今後も活用方法を研究していく必要がある。</p>
	算数	<p><b>調</b>・すべての領域において全国平均正答率を上回っており、概ね2年生の基礎的な学習は身に付いているといえる。しかし、集団の中での個人差が大きく、二極化している。</p> <p><b>調</b>・「基礎・活用」の分類では「基礎」が全国平均値との差が「活用」に比べて小さい。</p> <p>「解答形式」の分類では、「選択」が全国平均値との差が「短答」や「記述」に比べて小さい。</p> <p><b>学</b>・九九や目盛りを読むなどの単位の読み取りに差が見られる。</p>	<p>・文章題での正答を求めるために九九を適用し立式する力を伸ばす必要がある。</p> <p>・減法の文章問題を表した図の理解。</p> <p>・目盛りの読み取りや単位問題の理解。</p>	<p>・問題文からかけ算の式に表す機会を増やす。また、習熟が必要な児童には絵や図を用いて乗法の式を加法に表したり、累加で求めたりという指導も段階的に行う。</p> <p>・テープ図など具体物を活用し、文章題と図を結びつきやすくする機会を設け習熟を図る。</p> <p>・家庭との連携を密にし、目盛りや単位問題において習熟を図る。</p>	<p>・タブレット端末を効果的に活用し、問題に触れさせる機会を意図的に増やした結果、問題に対する苦手意識を持つ児童は減っているように感じている。今後も具体物を効果的に活用し、様々な考え方で未習事項へ取り組む、前向きな児童を増やしていく。</p> <p>・保護者会や個人面談などにおいて身近な生活場面での算数の活用について話をすることで算数の学習意欲の向上につなげていく。</p> <p>・目盛りの読み取りや単位問題においては確実に伸びてはいるが、まだ個人差があるのが現状である。今後も個別指導の充実を図り二極化の解消に努めていく。</p> <p>・タブレット端末を効果的に活用し、計算問題のケアレスミスを減らすための取り組みを充実させる。</p>	<p>【成果】</p> <p>・目盛りの読み取りや単位問題においては習熟度別少人数指導により個別の指導を重点的に行った成果が出ており、ケアレスミスが少なくなった。</p> <p>・タブレット端末の活用においては、児童相互の意見の交流や映像資料を効果的に活用することで未修事項への取組への学習意欲が高まった。。</p> <p>【課題】</p> <p>・コロナ禍において保護者会が開催されなかったこともあり、児童の学習意欲を向上させるような家庭との連携がまだまだ不十分であった。来年度は学習面での連携について発信していく必要がある。</p>

4	国語	<p>【調】・ほぼすべての領域において全国平均を上回っている。しかし、昨年度ほどの二極化は見られることはなく、多くの児童が全国平均へと押し上げられている。</p> <p>【調】・全国平均を下回ったのは領域では「書くこと」、解答形式では「記述」ということから、主に文章を書くということに対してポイントが低い結果となった。</p> <p>【学】・国語や総合的な学習の時間で行う新聞を書く活動や報告書を書く活動においては苦手意識がある児童は少ないが、書き方の指導については細かく指導しなければならない児童が多い状況である。</p>	<p>・学習内容の定着に課題のある児童に対しては基礎基本の力を付けることが必要である。</p> <p>・段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く力を伸ばすことが必要である。</p> <p>・内容の中心を明確にし、事実を伝えたり、自分の考えをまとめる力や、書く力を伸ばすことが必要である。</p>	<p>・図書室の継続的な活用や家庭での読書量を増やすことで、文章に親しむ機会を増やし語彙を増やし、文章の構成に気付かせる（読書月間での読書貯金カードの活用など）。</p> <p>・漢字小テストを定期的に行い、定着を図る。定着が不十分な児童については再テストを行い、習熟を図る。</p> <p>・調べたことや考えたことが相手に伝わるかを考えながら書くことができるように、カードを使って分類・整理したり、友達と交流しながら文章を組み立てたりする活動を意図的に増やす。</p> <p>・短い日記や授業の感想などを定期的に継続して書かせる活動を増やすことで、日常から2段落構成で書く文章に慣れ親しませる。</p>	<p>・読書を好む児童が増えてきている。その要因としては、発達段階として、長文の物語やシリーズものを継続して読めるようになってきたことが大きい。</p> <p>・漢字テストについては、十分練習してからテストを行うことで、確実に定着させるとともに、子供の自信にもつなげるようにする。</p> <p>・タブレット端末の機能を活用して、200文字以内に自分の考えをまとめる活動や、それをすぐに友達と見合うことで、友達のまとめ方から学ぶことにもつなげる。</p> <p>・自分の考えのまとめ方について指導するため、文字数を意識して短文を書く機会を多く設定する。</p> <p>・タブレット端末のデジタルドリルを活用して、言語事項の練習に取り組むようにする。</p>	<p>【成果】</p> <p>・読書の習慣や基礎基本の漢字練習など、自ら学習に向かう姿勢が身に付いてきている児童が多い。分散での自主学習の期間があり、そこでさらに自習での学びができてきている。</p> <p>・タブレット端末での文章を記入したり、短文を書いたりする学習は、文字を書くことが苦手な児童にとっても意見がまとめやすく、また、意見交流も容易にできて効果が高かった。</p> <p>【課題】</p> <p>・個々の学習状況をきめ細やかに見取り、指導に生かすことがより強く求められている。学習内容の定着に課題のある児童に対して、デジタルドリルを効果的に活用するなど、家庭とも協力・連携しながら個別の指導の充実に努める。</p>
	算数	<p>【調】・全ての領域において全国平均を上回っている。しかし、平均を下回っている児童は10名以上いる。ただ、大きく下回っている訳ではないので、昨年度同様に個人差は大きくはない。</p> <p>【調】・全国平均は下回ってはいないが、全体と比べて「円や球の半径」や「コンパス」に関する問題に対しての評価は高くない。</p> <p>【学】・日々の学習への取り組みを見ても積極的に学習に取り組む態度が見られる。</p>	<p>・身についた「基礎」を「活用」する力を伸ばす必要がある。</p> <p>・一つの考えに止まらず、既習を生かした柔軟に考える力を伸ばす必要がある。</p> <p>・習熟度別のコース選択を適切に行い、自分に合ったコースを見付ける力を付けさせる必要がある。</p>	<p>・習熟度別学習の中でのきめ細やかな指導を継続して行う。</p> <p>・朝学習の時間を利用しデジタルドリルを効果的に活用することで反復学習を積極的に取り入れ、繰り上がり、繰り下がり計算の習熟を図る。</p> <p>・東京ベーシックドリルやワークシートを活用し、基礎を生かした活用問題について積極的に取り組ませる。</p>	<p>・学習内容が抽象的になったこともあり、習熟度別の学習を行う際には、十分児童の実態を反映させる形でコース分けを行い指導に当たる。</p> <p>・タブレット端末のデジタルドリルを活用して、スモールステップで一人ひとりの児童が学習を積み重ねられるようにする。</p> <p>・学習が進んでいる児童も多数いるので、その児童に合わせて、より思考力を育成するような問題を用意して、個に合わせた指導を心掛ける。</p>	<p>【成果】</p> <p>・計算練習など積み重ねが必要な学習は、こつこつと取り組んでいるので、一部の児童を除きほぼ身に付いてきている。</p> <p>・習熟度別の学習が十分なされない中で、児童は自分の学習を進める姿勢が身に付いてきている。互いに教え合うなどの学びの姿が見られるようになった。</p> <p>【課題】</p> <p>・思考力を問われる問題に自力で取り組むことが難しく、苦手意識をもっている児童がいる。</p>
5	国語	<p>【調】・全ての領域において全国平均を上回っている。学習内容の定着が見られる。</p> <p>【調】・個別の正答率をみると、数名の児童の正答率が極端に低い。これを二極化と言えるかどうかは不明である。</p> <p>【学】・文章の構成要素についての理解については伸びしろがあると考える。</p> <p>【学】・話の内容を理解して聞いたり、友達の意見を聞きながら自分の意見を伝えたりすることが苦手な児童がいる。</p>	<p>・全てのカテゴリーの指導において数名の児童には丁寧な個別指導が必要である。家庭との連携も密にしていく必要がある。</p> <p>・主語、述語の関係を理解し、相手に伝わる文章を書く力を伸ばすことが必要である。</p> <p>・相手の意見を聞いて自分の考えと比較し、考えを深める。それをもとに読み手意識を持ちながら書きたい内容を整理したり、内容を分かりやすく表したりする力を伸ばす必要がある。</p>	<p>・短作文や1分間スピーチの原稿を書く機会等を意図的に設け、文章の構成要素について理解を深められるような指導を行う。</p> <p>・授業の中でじっくり考える時間を確保する。また、自分の考えと比べながら考える時間を意図的に設ける。文章を書く際の構成を考える指導も計画的に行い、段階的な指導を行う。</p> <p>・家庭との連携、個別支援の充実（ティームティーチングの効果的な活用）。</p>	<p>・短作文に取り組ませることは、苦手な児童も抵抗なく取り組むことができた。</p> <p>・主語と述語の関係がねじれてしまう児童には、一文を短く書くことを意識させることで、読み手に分かりやすい文章が書けるようになってきた。今後は文章が長くなっても、主語と述語の関係を意識して文章にまとめられるようにしていく。</p> <p>・自分の考えを整理する時間を確保したことで、友達の意見と比較し共通点や相違点を見つけることができた。友達の意見と比較することでより自分の考えを深めることができた。</p>	<p>【成果】</p> <p>・継続的に作文指導を行った結果、学年末の本の紹介文や総合的な学習での発信する際の手紙について、児童は書きたい内容を系統立てて書くことができた。</p> <p>【課題】</p> <p>・コロナ禍で、対面での意見交流が困難になったことにより、タブレット端末を効果的に活用し交流を行った。端末操作が不慣れな児童においては一つハードルが増えてしまい、自分の考えを深めるまでには至らない児童がいたことは確かである。</p>
	算数	<p>【調】・全ての領域において全国平均を上回っている。学習内容の定着が見られる。</p> <p>【調】・領域の「図形」では全国平均と9ポイント差で他の分類よりも差が小さい。</p> <p>【学】・学習内容の習熟状況に差が見られる。</p>	<p>・全ての領域の指導において数名の児童には丁寧な個別指導が必要である。家庭との連携も密にしていく必要がある。</p> <p>・既習事項を生かして様々なアプローチから問題を解決する力を伸ばす必要がある。</p> <p>・平行四辺形や台形などの作図を正確に行うことができる力を伸ばす必要がある。</p>	<p>・家庭との連携、個別支援の充実（ティームティーチングの効果的な活用）。</p> <p>・作図のワークシートを用意し、正確に行うための言葉掛けを意図的にを行い、習熟を図る。</p> <p>・授業時間において既習事項を日常生活のあらゆる場面で生かせることに着目させると共に、他の教科の学習においても活用するように意図的な指導を行う。</p>	<p>・習熟度別学習（少人数算数）により、スモールステップで指導を進めたことで、算数に苦手意識をもっている児童も意欲的に学習に参加できた。</p> <p>・図形の学習では、方眼紙を使って指導をすることで正確に作図ができるようになった。手先が器用でない児童もいるので、図形以外にも丁寧に線などを引かせることを引き続き指導したい。</p>	<p>【成果】</p> <p>・スモールステップ（個別）での指導は効果的な単元が多く、基礎基本の定着を図ることができた。</p> <p>・タブレット端末のアプリを効果的に活用し、児童全員で意見を交流する場面が増え、ノートも丁寧に書く児童が増えた。</p> <p>【課題】</p> <p>・定規で線を引くこと、分度器で正確に角度を測ること、コンパスできれいな円を描くことなど、作図の技能の定着に課題のある児童もいる。今後も継続して指導する。</p>

6	国語	<p>【調】・全ての領域において全国平均を上回っている。学習内容の定着が見られる。</p> <p>【調】・領域の「書くこと」では全国平均と4ポイント差で他の分類よりも差が小さい。</p> <p>【調】・数名の児童においては極端に正答率が低い。</p> <p>【学】・漢字の書きとりの間違いが多く見られることから、十分な定着は図れていない状況である。</p>	<p>・指定された長さで文章を書く活動に関して伸ばしていく必要がある。</p> <p>・漢字の読み書きは定着しているので、既習の漢字を正確に書きとるという活動を意図的に増やし、伸ばしていく必要がある。</p> <p>・全ての領域の指導において数名の児童には丁寧な個別指導が必要である。家庭との連携も密にしていく必要がある。</p>	<p>・様々な場面において書く活動を取り入れ、書く活動に慣れ親しむ環境を意図的に作る。その際、気を付けなければならないポイントを明確に伝え、指導する。</p> <p>・漢字のワークシートにおいて80％に到達しなかった児童に対しては個別学習を行う。その後に再テストを行い繰り返し練習に取り組む習慣を付ける。</p> <p>・支援員との連携を密にすることで個別支援の充実を図る。電子連絡版を活用し家庭との連携を図る。</p>	<p>・自分の思いや考えを主語・述語・修飾語を適切に使うと共に、指示語についても効果的に使うなど、文章を書く際の基礎的な技能は身に付いている。</p> <p>・文章を書く際に段落を意識して書くことの必要性について普段の読書活動からも気づかせるように指導方法を工夫していく。</p> <p>・漢字テストにおいては正答率は上がっている。今後も個別指導を丁寧に行い、正答率の向上に努める。</p> <p>・タブレット端末を効果的に活用し、漢字や言語学習の習熟を図る指導を充実させる。</p> <p>・電子連絡板については効果的に活用できている。今後も児童とのコミュニケーションを通してより充実した連絡方法を模索していく。</p> <p>・支援員との連携を密にした結果、個別支援の充実については当初の計画通り行うことができている。今後の家庭との連携も密にし、効果的な支援の方法を模索していく。</p>	<p>【成果】</p> <p>・文章を書く際に段落を意識して書くことは継続的な読書活動と一年間の指導を通して身に付けることができた。卒業文集でも段落を意識して書くことができた。</p> <p>・分散登校があったことで必然的に電子連絡板を使う機会が増えたことで、よりICTを効果的に活用する方法を見付けることができた。</p> <p>【課題】</p> <p>・個別指導を丁寧に行った結果、漢字テストの正答率は上がったが、と言えるが、間違いを直すなど、より習熟を高める活動について、細やかに個別指導を行う。</p> <p>・コロナ禍ということで、家庭との連携については課題が見られた。次年度は解決に向けて取り組みたい。</p>
	算数	<p>【調】・全ての領域において全国平均を上回っている。学習内容の定着が見られる。</p> <p>【調】・数名の児童においては極端に正答率が低い。</p> <p>【学】・学習への取り組みやワークテストの状況から、粘り強く学習に取り組もうとする。</p>	<p>・比例の関係を理解し、一方の値に対応する他方の値を求めるという考え方についてはほぼ定着しているが、数名の児童においてはまだ十分身に付いていないので、伸ばしていく必要がある。</p> <p>・様々な解き方を考える活動を増やすことで、既習事項を活用する力を伸ばす必要がある。</p> <p>・言葉、図、式など多様な表現で自分の考えを説明する力を伸ばしていく必要がる。</p>	<p>・個別指導の充実（T2）。家庭との連携を強化する。</p> <p>・ノート指導を充実させ、様々な解き方を考えた児童を認め励ます。また、多様な考えで解決する授業づくりを充実させる。</p> <p>・問題に対する答えだけではなく、多様な表現で説明することの大切さについて指導する。そして、よりよい方法で解くことを共有できるような授業作りを行う。</p>	<p>・比例の関係の学習においては個別指導の充実をはかったことで、二極化は解消されつつある。しかし、単位量あたりの大きさにおいてはまだ二極化が見受けられるので、個別指導の充実を今後も図っていく。</p> <p>・発問の工夫により、一つの問題に対して様々な解き方を考え、意欲的に授業に取り組む児童が増えつつある。今後も発問の工夫は継続し、板書においても工夫改善していく。</p> <p>・問題を解く際に図や表、そして式を効果的に活用して説明しようとする児童が増えた。</p> <p>・タブレット端末を効果的に活用し、計算の習熟を図ると共に、友達と意見を交流させる機会を充実させるツールとして活用方法についても模索していく。</p>	<p>【成果】</p> <p>・単元テスト結果から1当たりの量の捉え方については二極化がほぼ解消された。中学校でも大切な考え方となるので、卒業まで指導していきたい。</p> <p>・年間を通して発問の工夫について課題意識をもち取り組んだことで、児童の考えをより引き出す授業作りができた。</p> <p>【課題】</p> <p>・タブレット端末については、児童間の意見交流の場として効果的に活用できた。今後はデジタルドリルの個々の児童の取組状況をどのように見取り、どのように指導に生かすかが課題である。</p>
音楽	<p>【学】・昨年度同様に今年度も様々な制約がある中での学習になることが考えられる。歌唱指導の時間があまりとれない中ではあるが、グループで協同しながら音楽活動に取り組むことを中心とした学習に児童は積極的に取り組んでいる。</p> <p>【学】・高学年では器楽合奏、中学年では音楽作り（音階・リズム）を行っているが、これらの活動に積極的に取り組もうとする児童が多い。</p>	<p>・友達と上手く関わり合いながら進んで学習できる児童が多い反面、一部の児童においてはなかなか上手く関わるができずに学習に戸惑いがある児童もいる。</p> <p>・音楽表現を行う中で、自分の思いや意図をもって表現活動を行うことができない児童を伸ばしていく必要がある。</p>	<p>・技能面において不安がある児童においては個別に指導を行う。精神面において不安がある児童においては声掛けを多く行い、なるべく一緒に活動できるような配慮をする。</p> <p>・音楽表現を行う際の工夫の仕方については、まず全体で例を共有した後、個別に考えさせるなど、スモールステップで活動に取り組ませる。個別活動での言葉掛けも充実を図る。</p>	<p>・グループで合奏を行う際には技能面の個別指導を充実させることで、苦手意識をもつことなく取り組むことができる児童が増えつつある。</p> <p>・グループでの関わりに苦手意識がある児童についても声掛けを多くすることで、少しずつではあるが、音楽という時間が充実した時間になりつつある。</p> <p>・タブレット端末を効果的に活用している。自分たちの演奏を客観的に視聴することができる機会を意図的に設けることで振り返りが効果的になったり、楽器の使用に制限がある中、楽器の代わりにタブレットから音を出したりと模索しながら活用している。</p> <p>・音楽表現の中に自分の思いや意図をもって活動できる児童が増えた。これからも思いや意図を言語化させることでより充実した表現活動にしていく。</p>	<p>【成果】</p> <p>・新型コロナウイルス感染防止拡大対応に伴う学習活動の制限がある中でも、友達と協働し学ぶ活動に意欲的に取り組めた。教材提示の仕方、教具の工夫などで意欲の継続をすることができた。</p> <p>・タブレット端末を用いた授業では、児童が積極的に学習に取り組み、学習内容の定着に向けて、効果的に活用することができた。</p> <p>【課題】</p> <p>・個に応じた課題は必要になるので、継続していく。来年度も制限がある中で活動するので、活動を考える必要がある。</p>	

図工	<div>学</div> <div>・昨年度同様に今年度も様々な制約がある中での学習になることが考えられる。主に、共同制作や相互鑑賞において制限があることが予想されるので、その他の活動において充実したものになるように取り組んでいる。</div> <div>学</div> <div>・造形活動に対する児童達の活動意欲は高いが、活動全体において見通しをもって取り組んでいる児童は多くはないのが現状である。</div>	<div>・自分が表現したいこと（主題）をもつことや見出すこと、そしてそれらを深める力を伸ばしていく必要がある。</div> <div>・活動を通して味わうことができる表現することの楽しさや奥深さを追究する力を伸ばしていく必要がある。</div>	<div>・児童自身が主体的に取り組みたいと思うような題材の設定や場の工夫や共有の方法など、環境面の整備も含めて多面的な指導の充実を図る。</div> <div>・ワークシートやポートフォリオを意図的に活用し、指導と評価の一体化を図り児童の実態把握と主体性を引き出す指導の充実を図る。</div>	<div>・友達との交流については現状として難しい部分ではあるが、自己を見つめ、主体的に表現しようとする児童は増えている。作品の意図やテーマを言語化する活動では、友達の作品に対しても多角的な見方をしている児童が増えた。</div> <div>・タブレット端末を効果的に活用し、作品の制作過程を記録しておくことで、自己の作品についてより客観的に振り返ることができるようにする。</div> <div>・展覧会において集団制作を行う上で、友達の良さに気づき、それを伝え合い成長していけるように効果的に言葉掛けを行い、個別指導の充実を図る。</div> <div>・鑑賞の活動を通して、感じたことや考えを言語化させると取り組みを充実させていく。</div>	<div>【成果】</div> <div>・コロナ禍の中で制限のある活動が多かったが、児童は制作過程を楽しんだり、主体的に表現しようとする題材や活動の工夫ができていた。</div> <div>・タブレット端末を用いた授業では、児童が積極的に取り組んで効果的に活用することができた。</div> <div>【課題】</div> <div>・タブレット端末を作品の制作過程の記録や振り返りにより活用し、指導と評価の一体化を充実させていく。</div>
特支					

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2 ページ以上となってもよい。